

## 南の島でー

夕陽に向かって漕ぎ出していたサーファーも、セイラーも、スイマーも、  
劇的な水平線のサンセットが幕を降ろすと、帰路に着く。

そして 海は たちまち 黄・青・黒・透明の魚たちに返される。

彼らは 嬉々として 磯辺に泳ぎ寄り、旅人に 華麗な別れの舞を 見せる。

海は 人々の心に 愛と平和を 贈り、今日 澄み切った波頭の前に、全ての人々を 詩人に変えるー



## 風とー

メインハリヤードは、全体重を掛けて引くー

そんな簡単な基本も解らずに、メインセールを上げるのに手間取っていた。

「そのうちに力が付いて来ますよ。」 と言っていたベテラン船乗り達も、

「全体重を掛ける」とは

言わなかった。

もたもたしていると、ロープが風に吹かれて スプレッダーに巻きついてしまう。

そうになると、上げる事も下げる事も叶わず、ひっかかったロープをはずすのに、

荒海に落水する危険を冒して キャビンの天井に登らなければいけなくなる。

船乗りは、常に「片手は船のために、片手は自分のためにー」が 鉄則の世界で、上下左右に揺れる強風  
の中で、両手を使う作業には 命綱が必要だ。

素早く 「もやい結び」で身体にロープを巻き、片方の端をマストに結ぶ。

ボートフックを片手に キャビンの屋根に登り、大揺れのハリヤードロープを

背丈の二倍程の高さの Spredder からはずすのは並大抵の作業ではない。

船は揺れ動き、シングルハンドなら 舵は固定して船室の上に登るので、船の方向を変えて風の助けを  
得る事は出来ない。

風だけが勝手気ままに向きを変えて吹きまくる。ハリヤードは、はずれない。

ヨットセーリングで一番忙しく、一番肝心の作業ーメインセールを素早く上げるー

という事に、新しい境地を見出した昨日は、有意義な一日であった。

次に難しい着岸も、棧橋方向からの風に備えて、船は大回りで棧橋にできるだけ

平行に入り、艇の前半分が棧橋に着くと、エンジンをニュートラルに、「前・後もやい」二本を持ち、船の停  
止を確認して素早く船体中央から飛び降りる。

…ところが風が結構強く、体重不足の私を棧橋に残して、船はあっという間に遠く後ろへ行ってしまう。

ここで あわてず、あせらず、二本の「もやい」を放さずに 船のライフラインをつかむ。

ゆっくり棧橋に引き戻し、その時 船体を棧橋でこすって傷つけない様に、風が

どうするつもりなのか相談しながら、押したり 引いたりー。

丁度良い具合に棧橋と船が平行になったところで、二本の「もやい」を引く。

船はそれでも ゆっくり のんびり、ポンツーンの定位置に近づいてくる。

丁度良い位置に 船が流れて来た時、すかさず、風上の船首左舷「もやい」を

クリートにエイトノット結びで留め、走って船尾「もやい」を風下クリートに留めに行く。

ここまでは一秒をムダにしないスピードで終える。

二箇所「もやい」で船が固定されると、やれやれ。

もう一本 右舷の船首「もやい」を中ほどのクリートに結ぶ。

おもむろに、再び船腹から船に戻り、エンジンを切る。

そこそこ 風があったので、セーリングは快調であった。

「良い風でしたネエ」

「本当に 今日はよく走りましたネエー」

近くに係留した単独航海のヨットマンが 嬉しそうに応える。

シングルハンド同士 「自然」とたっぴり戯れた喜びを分かち合いたいのだー。



順風満帆



未だハーバーを持たない  
ベトナム NPO 代表と施設見学